

現代民俗学会第3回運営委員会 議事録

日時：2008年9月20日 18:10～19:20

場所：お茶の水女子大学 大学本館2階209室

出席：石本・小川・佐野・菅・塚原・徳丸・吉家・前川・松岡・渡部

委任：板橋・小島

1. 会計報告

石本委員より新入会員について説明があり、あらたに5名の入会を承認した。なお会員の記載に都道府県名をつけることに異議が出され、今後は所属機関（ないし活動拠点）を表示する方針となった。

2. 来年度大会について

来年度大会の日程を5月23日（土曜日）と決定し、すみやかに宮本会長へ当日の会場確保を依頼することとなった。大会の内容は「研究会」担当で協議し、次回委員会までにメール等で審議を行う。

3. 雑誌創刊号について

小川委員より創刊号の執筆依頼先案が提示され、あわせて来年5月刊行までの編集スケジュール、執筆者数・分量、費用の問題についても提案が行われた。

（1）依頼先について、各論から入ることを避ける必要性、学会のカラーを出す必要性、「××の可能性」というテーマで原稿依頼する案などについて意見交換された。

（3）体裁・分量について、版型はB5判とし、執筆者1名あたり原稿用紙30枚程度で、8～10名程度に依頼する方針となった。依頼時には現代民俗学の趣旨を充分に伝え、自分の分野に立脚した総論の執筆を求める。会員以外への依頼も行うが、その際には入会を同時に依頼する。

（4）編集スケジュールについて、著者校正を初校のみとしてスピーディに進めることが提案された。原稿提出先は学会メールアドレスとし、ファイル形式は極力Wordとする。表紙デザインは設立総会時と同様の依頼先とする。また指定ロゴ、印刷業者についても今後検討する。

(5) 会誌のタイトルについて、今後のメール審議により 3 つ程度の「案」を作成し、これを会員にメールで諮る方針とした。

(6) 第 2 号の公募にあたって、投稿規定を作成する必要がある。編集委員のあいだで下案の作成にあたることになった。

4. その他

(1) 第 2 回研究会（京都民俗学会と共催）について、現代民俗学会側の発表予定者が報告され了承された。今後、八木委員との交渉は徳丸委員が中心になって進める。

(2) 次回運営委員会については、第 2 回研究会までにメール審議を進めたうえで、必要に応じて、京都でも研究会開催と同時に委員会を行う。

(3) 現在、学会サイトに旧準備委員会としての活動内容（第 1 ～ 3 回事前研究会）の内容が削除されていることについて質疑があった。積極的に公開すべきとの意見をふまえ、サイト内に「旧準備委員会」のページを設けて再度公開する方針となった。ただし、内容に関しては概要とするなど改編の可能性もある。

以上